



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年12月06日 第1047号「週刊五十嵐レポート」

ちょっと変わっている方がいい

11月下旬に社長塾の忘年会を行った。日程の都合で参加できない人もいたが、10数名の経営者が参加された。

社長塾に参加される経営者は、100社中2、3社の割合で、本当に少数である。中小・零細企業が主力であることで、売上の規模を追うのではなく、利益性を高める学びである。

基本になることは、経営の目的はお客作りである。会社は粗利益で生きている。その粗利益はお客からしか生まれない。常に強い競争相手がいるため、不利な立場にいる。その中で生き残るには、強いモノ作り、小さいながらも1位作りをしていかないと業界平均以上に利益を出すことはできないという思考である。こんな風に考える経営者は少ない。普通はどうしたら売上を上げられるか、どうしたら儲かるかを考える人が多い。するとすぐ儲かるモノに飛びつく。それら人たちとは違うため、周りからは「変わっている」と評価される。社長塾では「変わっている」は誉め言葉になる。

社長塾の経営者の中でも「あなたはぶっ飛んでいる」と思われている人がいる。異国の地で仕事を10数年行い、東日本大震災後に、祖国日本に戻り事業を始めた。本能のまま事業をやってきて7年経ち、このままでいいのかわかり、社長塾で経営を学び始めた。学んでいくと自分は弱者の経営戦略通りに行っていることが解った。本能で行っていたことが論理的に裏付けとなり自信がついてきた。今後は自分の思いと論理的に合致する展開を試みることにした。

その経営者は、同業者とは違う視点で経営を行おうと思っていた。地域も特定された地域を選んでいった。本能的に他社との差別化を選んでいった。本来経営を学んでいないと、同業者と同じことを選んだり、安直にすぐ儲かるモノに手を出す。それをしていなかった。考えてみると異国の地で仕事をするには理不尽な差別や偏見があるにもかかわらず生きていくには独自性を出していくしかない。それを身につけていた。他社との違い、「差別化」。さらに「強いモノ作り」。変わっていないとできないのかもしれない。

ちょっと
気になる出来事

12月4日付日経新聞、「ニッポンの統治」で前法政大学総長田中優子氏のコメント。新型コロナウイルス対応について、「データや科学に基づいて判断し、作戦を練り、行動することができていない。第2次大戦で負けた当時と変わっていないのではないかと。与党だけではなく野党も同じかもしれない。日本の政治の性質とすればかなりまずいことだ」「政治目的が曖昧なことだ。目的にも短期・中期・長期とあるが、何年後にここまで達成するという見通しが明確に示されない」「経済成長が目的になっている政治家が多い。人が生きていくには経済力は必要だが、いかに生きるかの方が大事だ。戦後から経済成長を追い求める政治が続き、目的になっている」

私も感じていたことは、今の状態は、第二次大戦時と何ら変わりはないのかということ。政治に頼るのではなく、個人個人が自分の命を守る。何が真実か、自分自身で確かめ、自分の責任において行動する。

経済成長を目的にしているということは、国債をバンバン発行（借入）してでも成長するという考え。これは今さえよければいい、長期的視点が見えない。借金は次の世代がなんとかするだろうという発想。コロナ禍でもそれは感じる。



一口メモ
知識

武人(ぶじん)大君(たいくん)となる

眇(すがめ)にして能(よ)く視るとし、跛(あしなえ)にして能(よ)く履(ふ)むとす。虎の尾を踏めば人をくらう。凶なり。武人大君となる。

洞察力も推進力も未熟なのに、力があると思込み、危険な道を恐いものなしで無謀に進む。その結果、虎の尾を力任せに踏み、ガブリと食われてしまう。凶である。武人が大君となるのと同様、無理がある。

「虎」は先人の譬え。「武人」は野心と力があり、一旦は地位と名誉を勝ち取るが、謙虚な気持ちがなく、礼節を弁(わきま)えないために虎に食われ、やがて身を破滅させる。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榊五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

